

平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【北海道厚真町】

実施報告書 (概要版)



北海道厚真町について

厚真町（あつまちょう）は、北海道の南部に位置し、苫小牧市、安平町、むかわ町、夕張市、由仁町と隣接しており、町北部から中央部にかけて森林・農業地帯が広がり、町南部が太平洋に面しています。

人口は約4,700人、総面積約404km²であり、稲作を中心とした農業、林業、資源管理型の漁業が盛んです。

厚真町では、「快適に暮らせるあつま」を目標に、東日本大震災以降、防災意識の高揚、町民と行政が一体化した地域防災対策の推進を目的として、防災訓練や防災教育の充実を図っています。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月5日（日）午前9時に十勝沖・釧路沖を震源とする震度5強の地震が発生。気象庁は午前9時2分に大津波警報を発表し、浜厚真地区では午前9時55分に最大8.1mの津波が到達する。沿岸部の住民はただちに指定の津波避難場所へ避難を開始した。陸上自衛隊東千歳駐屯地は地震発生後直ちに災害派遣要請を受け、上厚真小学校へ部隊を派遣した。

■実施日時：平成29年11月5日（日）9：00～12：30

シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練

9：00～ 9：30

自由参加型訓練（応急救護訓練、災害図上訓練等）

10：00～11：30

炊き出し訓練、パネル・車両等展示

11：30～11：50

物資仕分け訓練

12：00～12：30

■主 催： 内閣府、厚真町、北海道

■参加者数：300名（※参加機関を含む。）

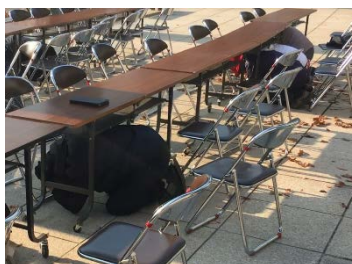
■参加機関：津波浸水想定区域内自治会（上厚真地区、共和地区、共和団地地区、厚和地区、浜厚真地区、鹿沼地区）、胆振東部消防組合消防署厚真支署、厚真消防団、厚真町交通安全指導員会、北海道札幌方面苫小牧警察署、陸上自衛隊第7師団第7特科連隊、室蘭地方气象台、北海道コカ・コーラボトリング(株)苫小牧事業所、新日本海フェリー(株)苫小牧支店、北海道電力(株)苫東厚真発電所

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練

全町民を対象に、「自助」の実践として、シェイクアウト訓練を実施した。津波浸水想定区域内の住民及び企業は、町指定の津波避難場所への避難訓練を行った。避難訓練後名簿による安否確認訓練を行い、発災から避難までの一連の避難行動を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:00～ 自由参加型訓練（応急救護訓練、災害図上訓練等）

シェイクアウト訓練、津波避難訓練、安否確認訓練の実施後、全町民を対象に、上厚真小学校をメイン会場とし、災害時の「自助」と「共助」の重要性を学習する場を会場内に展開し、自由参加型訓練として実施した。

訓練内容としては、避難所でのプライバシー確保等を学ぶための間仕切り組み立て体験、避難所で水が使用できない場合の物資の有効活用や生活の知恵に関する講習を実施した。

また、身近な道具を用いた応急救護訓練、実際の災害対策を検討する災害図上訓練、災害のメカニズムや防災気象情報を学習する防災講話を実施した。

▼間仕切り組み立て体験



▼応急救護訓練



▼災害図上訓練



▼防災講話



11:30～ 炊き出し訓練、パネル・車両等展示、物資仕分け訓練

自由参加型訓練後に、陸上自衛隊による炊き出し訓練、関係機関による災害対応車両の展示や、パネル等の災害資料の展示を実施した。

さらに、訓練終了時間に合わせて、備蓄食料と啓発グッズを救援物資と見立て、物資仕分け訓練として、参加者に配布し、防災意識の向上を図った。

▼炊き出し訓練



▼物資仕分け訓練



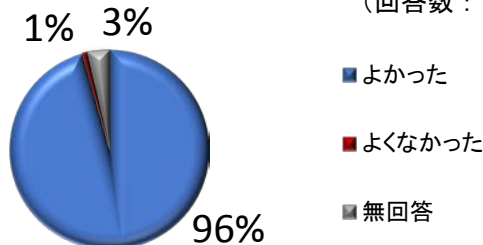
今後に向けた課題

アンケート結果

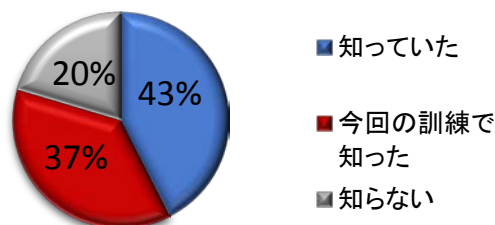
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：113人）

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

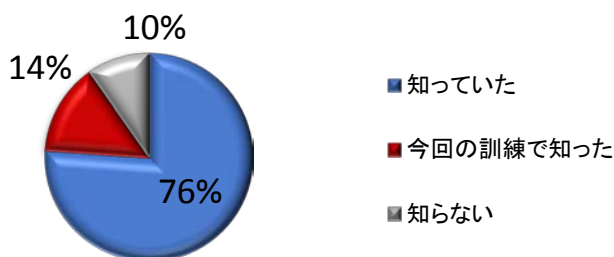
（回答数：113人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：113人）



問 自宅から津波避難所までの経路を知っていますか。（回答数：97人）



（注：回答数は無回答分を除いて集計）

訓練の評価

訓練当日は、町民や参加機関等合わせて約300名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後には、訓練参加機関による振り返り会議を開催した。会議で挙げた意見や訓練終了時に訓練参加者から得られたアンケート結果等を分析し、今回の訓練実施成果や、防災・減災対策や防災訓練に関する今後に向けた知見を整理した。本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 発災から避難まで一連の行動を実施したことにより、災害時の行動とその問題点について認識する効果的な機会となった。
- メイン会場で行われた自由参加型訓練については、多世代にわたり多くの住民が対応方法を学習したことで、災害時における「自助」「共助」意識の醸成を図ることができた。
- 訓練参加機関においては、災害時の一連の対応や手順を確認するとともに、災害時の機関間の連携の必要性について、学習する機会となった。

また、次のような課題が指摘された。

- 津波避難訓練については、津波浸水想定区域内地区ごとの特色に応じて、津波避難場所の設定を検討する必要がある。
- 寒冷地である当町においては、季節により避難行動の様相が大きく異なることから、夏季・冬季それぞれを想定した訓練を実施する必要がある。
- 町内の自助・共助・公助の防災体制を確立するため、町、住民、関係機関間での協議・検討の場を設け、相互連携を深めていく必要がある。

平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【秋田県秋田市】

実施報告書 (概要版)



秋田県秋田市について

秋田市（あきたし）は、秋田県の日本海沿岸地域の中央に位置し、906km²の市域を有しています。

市街地は秋田平野の中央に位置し、田園地帯が市街地を取り囲んでいます。東部には太平山や出羽山地が広がり、西側には海岸線が南北に走っています。南東部から中央部にかけては、雄物川が貫流し、流域には肥沃な耕地が広がっています。

秋田市では、「健康で安全安心に暮らせるまち」を市総合計画の将来都市像の一つに掲げ、総合防災訓練の開催やハザードマップの作成など様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：平成29年11月1日（水）、午前9時58分、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、秋田市では震度6弱を観測した。土崎地区では停電が発生し、国道7号では信号交差点が混乱するなど、老朽木造建築物の倒壊も発生した。
- 実施日時：平成29年11月1日（水）9：58～12：00
 - シェイクアウト訓練、津波避難訓練 9：58～10：50
 - 救助・救出訓練 10：15～11：00
 - 避難所開設体験訓練 10：30～11：30
 - 防災啓発 11：00～12：00
- 主催：内閣府、秋田市
- 参加者数：2,860名（※参加機関を含む。）
- 参加機関：町内会、小中学校、福祉施設、海上保安庁、警察、陸上自衛隊、消防、消防団、自主防災組織、地元企業 等

当日の訓練内容

09:58～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

土崎地区の自宅、学校、福祉施設、商業施設、企業等において、居合わせた場所で地震の揺れから身を守るシェイクアウト訓練を実施した。その後、参加者は浸水想定区域外や最寄りの避難場所へ避難し、地震発生から津波到達までの一連の行動を確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:15～ 救助・救出訓練 等

土崎港周辺において、消防、警察、自衛隊等の公助機関や、医師会、民間団体等が、現地対策本部や救護所の設置、人命救助・救出訓練、トリアージ、救急搬送、ドローン活用情報収集訓練等の各機関の現場での応急対策を実践し、関連機関の連携を確認した。

▼人命検索救助・救出訓練



▼ドローン活用
情報収集訓練



10:30～ 避難所開設訓練 等

北部市民サービスセンターにおいて、避難所開設体験訓練や緊急救援物資搬送訓練を実施した。また、地区内の別会場でも地震体験や初期消火体験等を並行して実施し、参加者の地震・津波防災に対する意識の高揚を図った。

▼避難所開設訓練



▼緊急救援物資搬送訓練



11:00～ 応急給食訓練 防災啓発 等

北部市民サービスセンター前において、陸上自衛隊及び秋田中央LPガス協会により応急給食訓練を実施した。また、閉会後も、同施設内で防災パネル展示や防災啓発アニメーション上映を実施し、訓練参加目的以外の来訪者にも防災啓発を促した。

▼応急給食訓練



▼防災パネル展示

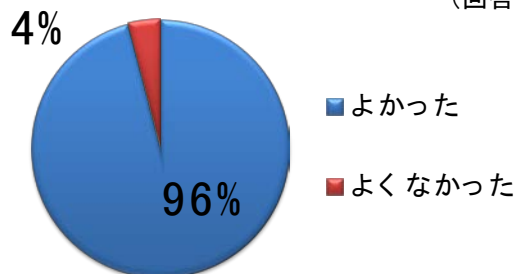


今後に向けた課題

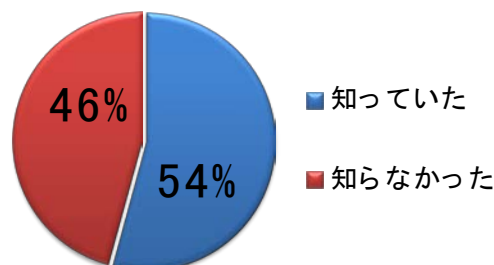
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：480人）

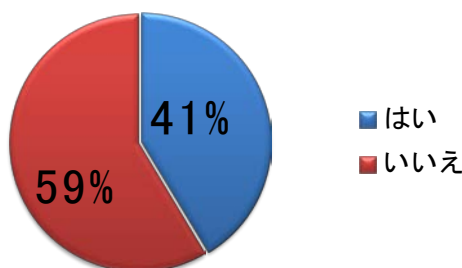
問 本日の訓練に参加してどう思いましたか
（回答数：467人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを
ご存じですか（回答数：472人）



問 災害に備え、非常用持出袋を準備していますか？（回答数：476人）



（注：回答数は無回答分を除いて集計）

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や児童・生徒、参加機関等合わせて2,860名が、終始意欲的に訓練に取り組んだ。

訓練実施後、市担当課による振り返り意見や、参加者のアンケート結果等を分析し、今後の防災・減災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」を整理した。この結果、本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 地域住民からは「参加して良かった」という意見が大半を占め、今回の訓練は地震・津波発生時の一連の行動を学ぶ実践的な機会となった。
- 学校、福祉施設、商業施設、民間事業者等、地区内の多様な特性の施設・利用者が一斉に参加することで、災害時のそれぞれの役割や行動が認識され、共助意識が効果的に醸成できた。

また、次のような課題指摘や今後の災害対策への提言がまとめられる。

- 参加者が多かった一方で、イベント色が強くなった面もある。関心をひくために必要な段階ではあるが、今後はより高い危機意識を持って参加できるよう実践的な訓練にしていく必要がある。
- 訓練参加者が、今後の地区、町内会レベルの訓練を主導する等、災害対策の中核を担っていける仕組みづくりが併せて必要である。
- ドローンによる情報収集等、災害現場へのICT技術の導入が今後ますます期待されるが、医療現場におけるAEDのように、住民の習熟度向上が望ましい技術についても、今後体験型訓練として取り入れる必要がある。

平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【千葉県富津市】

実施報告書 (概要版)



千葉県富津市について

富津市（ふつつし）は房総半島の南部、東京湾に面しています。人口約4.5万人、総面積約205km²の広い面積をもち、市の北部には富津岬が海に突き出しています。

訓練を実施した金谷地区は市の中央やや南に位置し、フェリーが発着する金谷港を中心に海岸沿いに市街地が細長く形成されています。市街地の背後には急峻な山が迫り、切り立った絶壁をもつ鋸山は観光地になっています。

富津市では、従来型の総合防災訓練を地区単位で細分化して実施するなど、地域の特徴や災害特性に配慮した防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月12日（日）午前9時に、震度6強の地震が発生。富津市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。金谷地区の住民は、地震発生後5分以内に津波の影響が始まり、後に最大高さ10mの津波が到達することを想定しながら、最寄りの十分高い場所へ避難を開始した。
- 実施日時：平成29年11月12日（日）9：00～12：00
シェイクアウト訓練、津波避難訓練 9：00～ 9：30
（シェイクアウト訓練は市内全域で一斉実施）
金谷小学校防災イベント 9：30～12：00
（防災展示会、防災講演会、訓練報告会）
- 主催：内閣府、富津市
- 参加者数：450名（※参加機関を含む。）
- 参加機関：金谷地区自治会（第1区及び第3～第8区）、金谷小学校（児童）、富津市消防本部、富津市消防団、富津警察署、自衛隊千葉地方協力本部、NTT東日本、防災科学技術研究所、千葉県

事前準備・企画と当日の訓練内容

3ヶ月前～ 訓練準備・企画

訓練に先立ち、地区住民が主体的に準備を重ねた。地区として初開催でもあり、「5分でどこまで逃げられるか?」「高さ10mを何分で超えられるか?」を把握する「課題発掘型」とした上で、地区ごとに高さ10m以上の「避難場所」やそこに向かう「避難経路」を独自に設定した。

▼地区住民による準備（訓練企画）



9:00～12:00 シェイクアウト訓練、津波避難訓練

市全域で、各自の居場所において地震の揺れから身を守るシェイクアウト訓練を実施した。

金谷地区では、引き続き津波避難訓練を実施し、訓練参加者が自らの現在位置等を時刻ごとに「携帯用避難地図（高さ10m地点と避難場所を記載）」に記録した。

▼訓練現場での地図記録



▼避難行動要支援者の避難誘導訓練



9:30～12:00 金谷小学校防災イベント

津波避難訓練終了後、全員がメイン会場に集合し、防災イベントを開催した。

●防災展示会

内閣府、自衛隊、NTT東日本、防災科学技術研究所、千葉県による啓発パネルや、金谷小学校児童が描いた防災ポスターを展示した。

●防災講演会

専門家（市民防災ラボ代表玉木貴氏）による「助かる命を守る共助—地域防災ははじめの一步」と題した講演会を開催した。

●訓練報告会

津波避難訓練参加者が記入した地図を回収・集計し、訓練の結果を全員で共有した。

▼関係者あいさつ



▼防災展示会



▼防災講演会



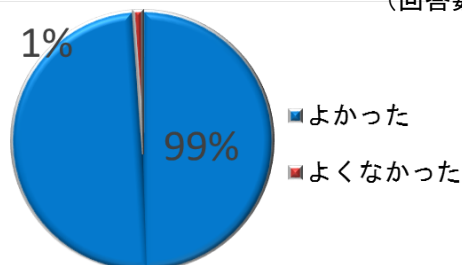
▼訓練報告会



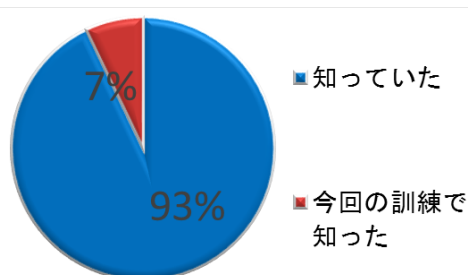
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：221人）

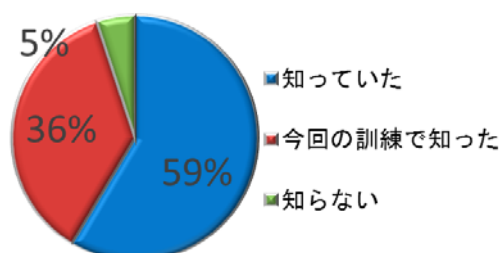
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：93人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：99人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか？（回答数：99人）



（注：回答数は無回答分を除いて集計）

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地区内で初めての訓練にも関わらず、多数の住民が参加した。「携帯用避難地図」の集計により、参加者全体の62%の住民が5分以内に高さ10mを超えて避難し、避難場所までの平均到達時間は7.6分だったことがわかった。今後の貴重な記録となるものである。

こうした結果を踏まえ、本訓練は以下のように評価できる。

- 地区事情に精通した住民が中心となって、地区の課題を共有し準備を進めたことにより、多くの住民が主体的に訓練に参加した。訓練後のアンケートでも「参加して良かった」「津波避難経路が分かった」という意見が大半を占め、これまで津波に対する取組が少なかった中、今回の訓練は、主体的な取組展開への絶好の機会となった。
- 地区住民のつながりが強く、訓練の準備・企画が迅速で、事前周知も徹底することができた。津波避難訓練は10～15分ほどの短時間の行動ながら、区長を中心に統率性のとれたものとなった。今回の訓練を通じて地域の絆の強さの重要性が改めて確認できた。

また、今後の訓練や防災対策に向けて、次のような点が課題として明らかとなった。

- 避難場所や避難経路については、経路上の安全性や、年齢・体力・健康状態にも配慮しながら設定し、津波避難訓練で検証する必要がある。
- 避難行動要支援者の避難については、地域の絆を活かし、支援も組み込んだ方法を考えながら、今後の訓練で検証する必要がある。
- 地区住民のほか、金谷港のフェリー利用客や鋸山の登山客、観光・飲食関連の事業者等を交えた津波避難対策を考えていく必要がある。

平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【東京都八丈町】

実施報告書 (概要版)



東京都八丈町について

八丈町（はちじょうまち）は、東京の南方海上287kmに位置し、面積69.11km²のひょうたん型をした島です。地形的には富士火山帯に属する火山島で、南東部の三原山と北西部の八丈富士から成り立っています。

人口は約7,500人で、産業は農業（花き観葉植物栽培）と沿岸漁業を基盤としています。商工では焼酎やくさや加工、伝統的工芸品の本場黄八丈織などのほか、各種の観光関連サービス業が中心となっています。

現在、八丈町では、八丈町津波防災マップを作成・配布したり、地域自主防災組織の整備を進めたり、防災行政無線による情報伝達の迅速化を図るなど、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月5日（日）午前2時に、南海トラフ地震が発生し、八丈町においても震度5強の地震を観測する。最大規模の津波襲来に備え、津波警報が発令された。津波到達が予想される地域の住民は避難場所へ移動を開始した。
- 実施日時：平成29年11月5日（日）9：30～12：00
 - 展示・体験 9：00～12：00
 - 津波避難訓練 9：30～10：00
 - シェイクアウト訓練 別日実施
 - ※この他、東京都、八丈町等により自主的な訓練を実施
- 主催：東京都、八丈町、内閣府
- 参加者数：約3,500名（※他訓練の参加者及び参加機関も含んだ事前の予定数）
- 参加機関：八丈町、東京都、陸上自衛隊、警視庁、東京消防庁、八丈高校など

当日の訓練内容

9:00～ 展示・体験

東京都立八丈高等学校グラウンドにおいて、防災に関するパネル展示やアニメーションの放映が行われ、参加者への防災についての知識の普及を行った。

▼津波避難に関するアニメーション放映



▼パネル展示



9:30～ 津波避難訓練

津波到達が予想される地域の住民は6箇所の避難場所に集合し、発災から津波到達までの避難行動を確認した。その後、参加者は東京都立八丈高等学校へ移動し、展示・体験を通じて防災への意識を向上させた。

▼避難場所への集合



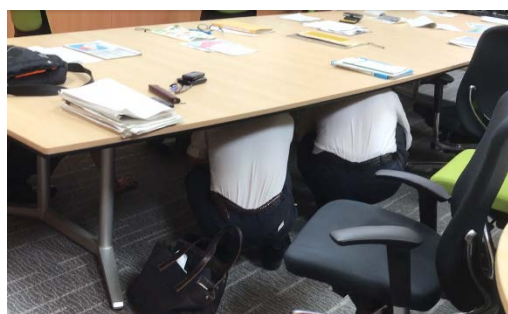
▼要介護者も参加



別日に実施

東京都八丈支庁にて、関係者・町民により、「自らの身の安全は自らが守る」という「自助」の取組みに重点をおいたシェイクアウト訓練を実施した。

▼シェイクアウト訓練



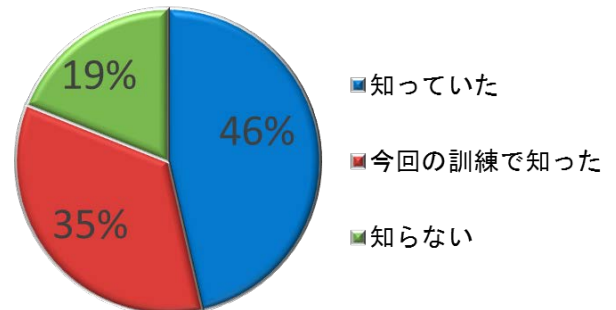
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：152人）

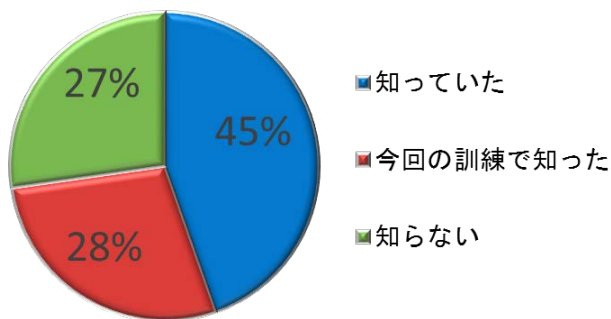
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数141人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数145人）



問 自宅から津波避難場所までの経路を知って
いますか？（回答数121人）



（注：回答数は無回答分を除いて集計）

訓練の評価

訓練当日は、住民や参加機関等が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、関係機関からの意見や地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災・減災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」を整理した。この結果、本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 地域住民からは「参加して良かった」という意見が大半を占め、今回の訓練は地震・津波防災の一連の行動を学ぶ効果的な機会となった。
- 参加した機関が多く、複数の機関が同時に訓練に臨むことで各機関が連携する意義が理解できた。
- 訓練準備段階では、東京都が関係機関に協力を呼びかけ、チームワークが高まり、今後の訓練の継続の土台を構築できた。

また、次のような課題が指摘された。

- 離島における災害対応は、現地で救助活動に対応する人員や活用できる資機材に制約があるため、関係機関等との連携による効率的な災害対応が必要である。
- 今回の訓練を通じて、津波避難の流れを実動形式で確認し、さらに展示・体験を通じて知識を深めることもでき、住民には収穫が多かった。今後も実動・学習を合わせながら取組を継続していくことが重要である。

平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【愛知県武豊町】

実施報告書 (概要版)



愛知県武豊町について

武豊町（たけとよちょう）は、知多半島中央部に位置し、東は衣浦港に面し、北は半田市、西は常滑市、南は美浜町に接した町です。

人口は約43,000人、総面積約25.92km²、東西に4.8km南北に6.5kmで、標高は高いところでも83.52mと比較的なだらかな地形です。武豊町は衣浦臨海工業地帯の一翼を担う工業都市として飛躍的に発展しています。

現在、武豊町では、「心つながりみんな輝くまち武豊」を町総合計画のまちの将来像に掲げ、災害時には、地域が主体となって災害発生を最小限にとどめ、被害の早期復旧や復興を図る対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月5日（日）午前9時、駿河湾から日向灘を震源域とした大規模な地震が発生した。東海地方から西日本の広い範囲で非常に激しく揺れ、武豊町では最大震度7を観測し、地震発生直後、気象庁は愛知県外海及び伊勢・三河湾に「大津波警報」を発表した。
- 実施日時：平成29年11月5日（日）9：00～11：30
 - シェイクアウト訓練、津波避難訓練 9：00～ 9：30
 - メイン会場、サブ会場での訓練、啓発展示 9：30～11：30
- 主催：内閣府、愛知県、武豊町
- 参加者数：5,000名（※参加機関を含む。）
- 参加機関：愛知県警察、知多中部広域事務組合消防本部、自衛隊、指定地方行政機関、防災関係機関、医療関係機関、指定公共機関、指定地方公共機関、自主防災組織、ボランティア団体、地域住民、地元企業 等

当日の訓練内容

9:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

緊急地震速報を合図に、各自が身を守る行動を実施するシェイクアウト訓練を実施した。

シェイクアウト訓練の直後に、防災行政無線により避難を呼びかけ、避難指示の発令を合図に、町内一斉に避難を行った。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



9:30～ 合同防災訓練

衣浦小学校グラウンドにおいて、倒壊家屋からの救出訓練、被災車両からの救助及び道路啓開訓練、応急救護所開設・運営訓練、高所からの救出訓練、消火訓練等、参加機関による訓練を行い、災害時における総合防災体制の確立と住民の意識高揚を図った。

▼被災車両からの救助及び道路啓開



▼応急救護所開設・運営訓練



9:30～ パネル等展示、防災・啓発グッズの提供・体験等

衣浦小学校体育館において、各種参加機関によるパネル展示や体験を行い、住民の防災意識の高揚を図った。

また、プレイルーム等において、防災リーダー会や防災ボランティアによる防災啓発パネルの展示、家具固定体験を行った。

▼パネル展示



▼災害ボランティアセンターに関する広報



9:30～ 避難所の開設・運営等

富貴中学校において、避難所の開設・運営や避難所内での福祉コーナー設置と要配慮者講座、救援物資の輸送等を行った。

武豊町総合体育館において、災害ボランティアセンターの開設・運営訓練を行い、ボランティアの受付から活動までの流れを確認した。

▼避難所内での福祉コーナー設置と要配慮者講座



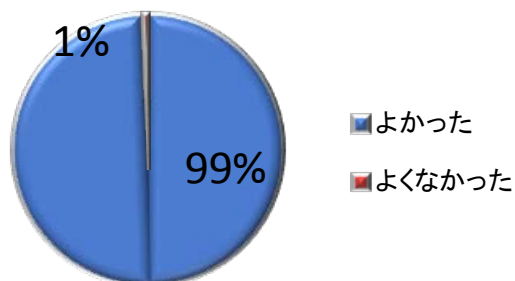
▼災害ボランティアセンターの開設・運営



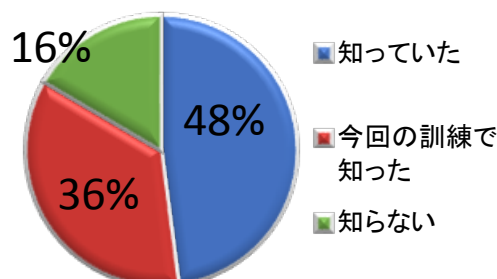
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：316人）

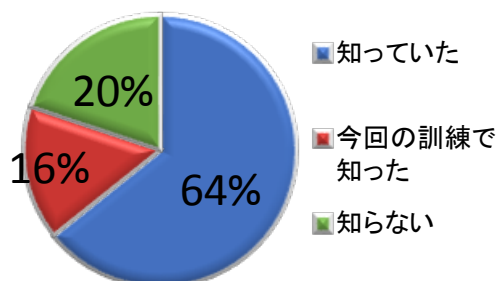
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：314人）



問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数：315人）



問 ご自宅からの津波避難経路を
知っていますか？（回答数：313人）



（注：回答数は無回答分を除いて集計）

訓練の評価

訓練当日は好天に恵まれ、自主防災組織（地域住民）や参加機関等合わせて約5,000名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災・減災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。この結果、本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 地域住民からは「参加して良かった」という意見が9割以上を占め、今回の訓練は地震・津波防災の一連の行動を学ぶ効果的な機会となった。
- 参加した機関では、複数が同時に連携して訓練に臨む意義が理解された。
- 地域住民主体による避難所の開設・運営を通じて、災害時の行動が確認できた。

また、次のような課題が指摘された。

- 訓練に参加した地域住民の約3割が、今回の訓練で初めて「武豊町防災マップ」、「武豊町防災ガイドブック」を手にした現状を踏まえて、これらガイドブック等の普及・啓発を強化する必要がある。
- 防災訓練は、町全体の取組として開催したが、避難所の開設・運営は一部の地域のみであり、今後は、他の地域においても、同様の訓練を行い、地域力を強化していく必要がある。

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【大阪府泉佐野市】

実施報告書 (概要版)



大阪府泉佐野市について

泉佐野市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、背後に一部が金剛生駒紀泉国定公園に指定された和泉山脈を擁し、美しい山河、緑あふれる恵まれた自然環境にあります。

商・工・農・漁業がそれぞれバランスよく栄えてきましたが、関西国際空港の開港などに伴う人口の増加とともに、商業・サービス業も盛んになっています。

面積は約56.51平方キロメートル、人口は約101,000人、世帯数は約46,000世帯です。瀬戸内式気候に属するため気候は温暖で、比較的少ない降水量となっています。

市民一人ひとりが様々な災害についての防災意識を高め、災害に対する備えを強化し、安全で安心なまちづくりを推進するため、毎年11月の第1日曜日を「市民防災の日」とし、全市をあげて防災訓練を行っているところです。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：午前9時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生し、泉佐野市では最大で震度6弱の大きな揺れを観測し、81分後に最大津波高3.8mの津波が押し寄せるとともに、各所で停電・断水・電話不通の状況が発生する想定の下で、訓練を開始した。

■実施日時：平成29年11月5日（日）09:00～12:00

シェイクアウト訓練	09:00～09:03
安否確認訓練	09:03～09:30
地震・津波避難訓練	09:03～09:30
要支援者避難訓練	09:03～09:30
避難所開設・運営訓練	09:30～12:00

■主 催：内閣府、泉佐野市

■参加者数：約4,300名

■参加機関：警察、消防、自主防災組織、町会自治会、社会福祉協議会等

当日の訓練内容

09:00～09:03 シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、訓練参加者全員が、防災行政無線による緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼シェイクアウト訓練



09:03～09:30 安否確認訓練

家の住民が無事であることを示すために、地震が収まった後に、外からでも一目でわかるように、玄関や門扉などにタオルを結び付けて避難を行った。

▼安否確認用タオル



09:03～09:30 地震・津波避難訓練

防災行政無線による避難指示の一斉放送を合図に、市全域の住民は、示された避難場所に速やかに避難を開始した。

避難にあたっては、車椅子やリアカーを活用した要支援者に対する避難訓練も行った。

▼避難の様子



▼要支援者避難



09:30～12:00 避難所開設・運営訓練

78町会が市内31箇所に避難所を開設し、運営を行った。

小・中学生が避難所運営の各班に配置されて、大人と一緒になって避難所の開設・運営に当たり、防災意識の高揚を図った。

▼避難所受付



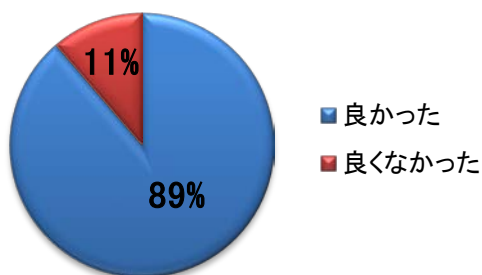
▼避難所運営本部



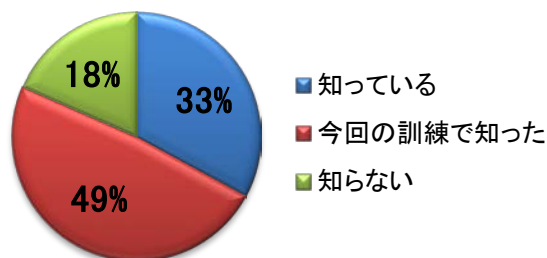
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：168人）

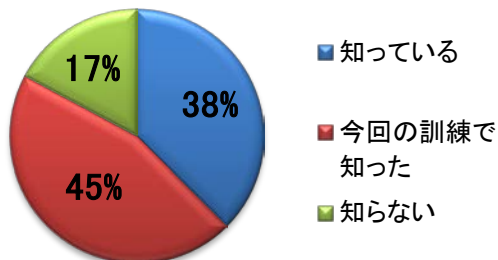
問 地震・津波防災訓練に参加してどう
思いましたか？（回答数142人）



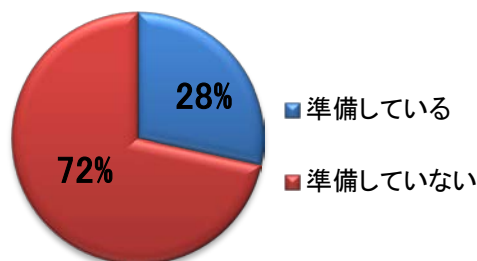
問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数158人）



問 ご自宅からの津波避難経路を
知っていますか？（回答数：152人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等
を準備していますか？（回答数：155人）



訓練の評価

全市挙げての地震・津波避難訓練で、78町会、約4,300名の参加があり、市民の訓練の重要性の理解と、防災意識の高さが分かる。これは、これまで行政と市民が連携して進めてきた防災対策の効果の表れと言える。

地域住民のアンケート結果から、「防災訓練に参加してよかった」、「避難経路を確認できた」、「平素から準備しておくべきことが分かった」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 防災を考える力を育てるため、学校、自治会、市が協力しあい、勉強する機会を作る必要がある。
- 常日頃から防災意識を高めるため、住民とのコミュニケーションが必要である。
- 訓練を継続して、一人でも多くの人に参加してもらう必要がある。
- 消防団以外の他の機関との連携の方法について検討する必要がある。
- 市と自主防災組織等が連携を強化して、継続的に訓練すべき。
- 安否確認タオルの更なる周知徹底が必要である。
- 場所によっては、防災無線の放送が聞こえ難かったため、ハード面の整備を検討する必要がある。

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福岡県行橋市】

実施報告書
(概要版)



福岡県行橋市について

行橋市は、福岡県東部にある人口約7万3千人のまちです。古くより大陸文化を取り入れ、瀬戸内海を通じた畿内との交流も盛んに行われていました。この地域は「京都（みやこ）平野」と呼ばれるように、市内には今も数々の史跡が残されています。北九州市と大分県中津市のほぼ中間に位置し、江戸時代には飴屋をはじめとする豪商が出現するなど、藩内では城下町小倉に次ぐ商業地として発展し、今の行橋の礎が築られました。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月6日10:00に、周防灘断層地震 M7.1～7.7が発生し 行橋市では最大で震度5強を観測した。地震発生直後より、大津波警報が発表され、行橋市の北部沿岸地域では、52分後に、最大津波高3.2m程度の津波が押し寄せ、家屋流失や浸水等の被害が発生する想定の下で、行橋市は地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成29年11月6日（月）	10：00～12：00
シェイクアウト訓練	10：00～10：05
津波避難訓練	10：05～10：15
情報伝達訓練	10：00～10：30
緊急患者空輸訓練等	10：05～12：00
防災講話等	11：10～12：00

■主 催：内閣府、行橋市

■共 催：福岡県

■参加者数：約2,000名

■参加機関：地区自主防災組織、区長連合会、小学校、气象台、
陸上自衛隊、航空自衛隊、警察、消防、NTT西日本等

当日の訓練内容

10:00～10:05 シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。



10:05～10:15 津波避難訓練

大津波警報が発表されたとの想定で、市役所からの防災行政無線等による避難の呼びかけに応じ、居住地域及び小学校から津波指定避難場所への避難を行い、大津波警報等の伝達体制と沿岸（津波浸水予想）地域からの避難誘導要領について確認した。

▼垂直避難訓練



▼高台避難訓練



10:00～11:00 情報伝達訓練・緊急患者空輸

大規模災害発生時等における情報伝達の手段・要領について、防災行政無線等、避難場所と災害対策本部、航空機による情報伝達の行動により確認した。また、緊急患者空輸訓練を行い、現地災害対策本部及び防災関係機関との連携要領について確認した。

▼情報伝達訓練



▼緊急患者空輸訓練



10:30～12:00 車両展示・防災講話

大規模災害を経験したことのない市職員、地域住民及び児童等を対象に、気象台による防災講話等を実施し、災害時の体験・教訓を伝承し、住民の防災意識の向上を図った。

▼車両等展示



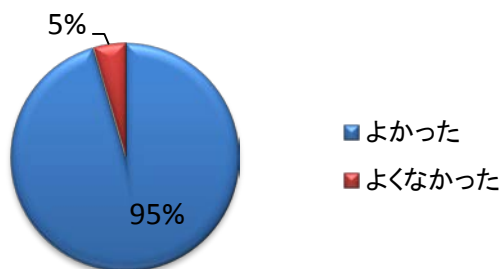
▼防災講話



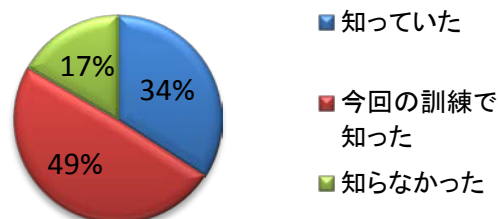
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：138人）

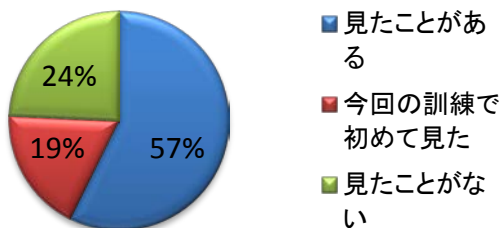
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
（回答数：135人）



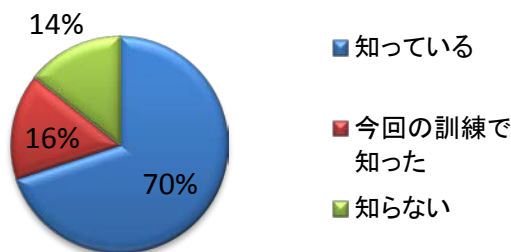
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：138人）



問 津波ハザードマップを見たことがありますか。（回答数：136人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか。（回答数：133人）



訓練の評価

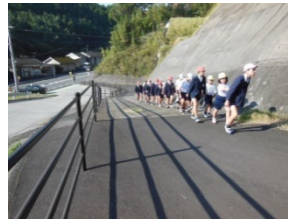
訓練当日は、快晴・温暖な天候に恵まれ、小学校、地区長会を始め防災関係機関が参加した。航空自衛隊築城基地、陸上自衛隊、福岡県警など官民19団体計約2,000人が、災害時の関係機関の連携体制や住民の避難手順などを確認し、一丸となって各訓練に終始熱心かつ真剣に取り組んだ。

地域住民のアンケートの結果、95%の方が「訓練に参加してよかった」と回答している一方で、次のような課題がある。

- 津波ハザードマップを約5割の方が見たことが無い、自宅からの津波避難経路を約3割の方が知らないと回答しており、更なる市民の防災意識の高揚を図るとともに引き続き啓発活動が必要である。
- 津波避難訓練では、市役所からの防災情報が聞こえ難いとの意見が多くあり、ハード面の確認や検討が必要である。

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【鹿児島県志布志市】

実施報告書 (概要版)



鹿児島県志布志市について

志布志市は、平成18年に曾於郡志布志町、松山町、有明町の3町が合併して発足しました。鹿児島県の東部、大隅半島の付け根の部分に位置し、広大な農地と温暖な気候を活かした第一次産業が盛んな地域で、特にうなぎは、日本有数の生産量を誇ります。

北東は宮崎県と接し、南側は志布志湾に面し、国の中核国際港湾である志布志港から国内外へ複数の航路が設けられ、南九州地域での重要な役割を担っています。人口は31,989人（平成29年10月31日現在）、面積は141.61平方キロメートルです。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月1日（水）午前9時、四国沖を震源とするM9.1の地震が発生し、志布志市では震度6弱を観測、志布志湾沿岸部では、36分後に最大津波高約7mの津波到達が予想される。
志布志市は、地震発生後ただちに住民に対し、防災行政無線等により、津波からの避難を呼びかけるとともに、現地災害対策本部を設置した。

- 実施日時：平成29年11月1日（水）09：00～12：00

シェイクアウト訓練	09：00～09：02
津波避難訓練	09：02～10：00
現地対策本部設置・運営訓練	09：00～12：00
災害ボランティアセンター設置・運用訓練	10：00～12：00
避難所開設・運営訓練等	10：00～12：00

- 主催：内閣府、志布志市

- 参加者数：約1,800名

- 参加機関：各地区町内（自治）会、自主防災組織、香月小学校、通山小学校、志布志高校、カトリック志布志幼稚園、志布志海上保安署、志布志港湾事務所、県大隅地域振興局、志布志警察署、志布志消防署、消防団、志布志市社会福祉協議会、その他防災関係機関等

当日の訓練内容

09:00～10:00 シェイクアウト～津波避難訓練

志布志市全地域を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置いたシェイクアウト訓練を行うとともに、志布志湾沿岸部の住民や幼稚園、小学校、高校等が、各々の津波避難場所までの避難訓練を行い、避難要領や避難完了までの所要時間等を確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



09:00～12:00 現地災害対策本部設置・運営訓練

大規模な地震の発生に伴い、津波浸水想定地域外の志布志市文化会館に速やかに現地対策本部を開設し、参集した防災関係機関との連携のもとに、被害情報の収集や応急的な災害対策活動を行い、連携体制の強化を図った。

▼参集した防災関係機関



▼現地対策本部会議



10:00～12:00 災害ボランティアセンター設置・運用訓練

志布志市社会福祉協議会が中心となって、志布志高校の生徒等を対象に、災害ボランティアセンター設置・運用の具体的な流れについての講習を行うとともに、災害ボランティアの受付～マッチング～活動のための資材受領の流れなどについて実習した。

▼講習



▼実習



10:00～12:00 避難所開設・運営訓練

各町内会の避難所運営要員に対して、避難所の開設・運営の基本的事項に関する講習を行った後に、市職員及び消防団員等を避難者に見立て、受付、居住区への受入れ、物資の配給等の避難所運営とともに、避難所用品等の取扱要領について実習を。

▼講習



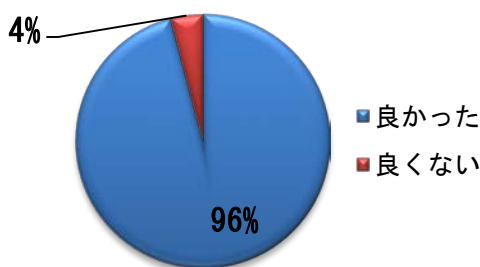
▼実習（避難者の受付）



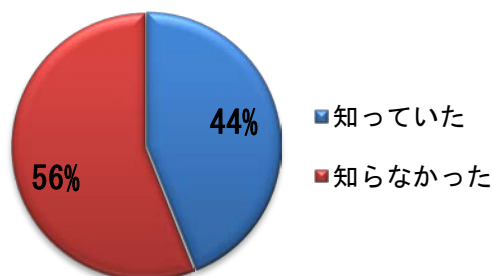
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：429名）

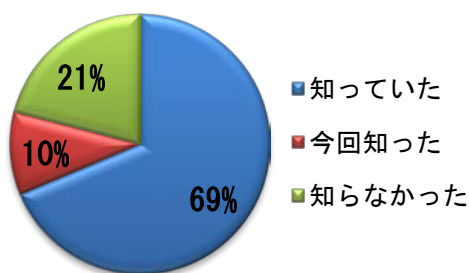
問 地震・津波防災訓練に参加してどう
思いましたか？（回答数416人）



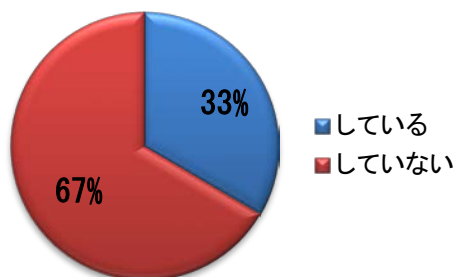
問 11月5日が「津波防災の日」であることを
知っていますか？（回答数384人）



問 ご自宅からの津波避難経路を
知っていますか？（回答数：377人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等
を準備していますか？（回答数：383人）



訓練の評価

訓練当日は、天候にも恵まれ、地域住民、幼稚園、小学校、高校、企業、市職員及び防災関係機関等、約1,800名が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、志布志市長、内閣府訓練担当者の挨拶、市職員等の所見、参加者のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の企画などの参考となるよう「課題」を整理した。

この結果、例年の防災訓練より、参加者が多く「防災意識を啓発できた」という評価の一方で、次のような課題が明らかになった。

- 避難対象者数に対して、避難スペースの狭い津波避難場所が見受けられた。
- 各々の津波避難場所及び指定避難所の周知が、やや不十分である。
- 平日の避難訓練は毎年行っているが、一方で、休日に家族が全員で避難訓練を行う機会が少ない。
- 避難訓練は毎年行っているが、津波災害に対する備えは必ずしも十分ではない。（アンケートでは、約56%の回答者が備えを行っていないと回答）

平成29年度内閣府 地震・津波防災訓練 【沖縄県うるま市】

実施報告書 (概要版)



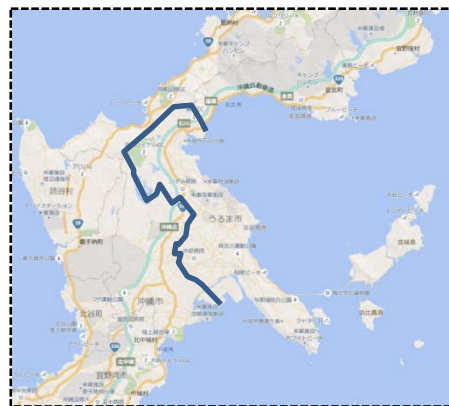
沖縄県うるま市について

うるま市は、平成17年に具志川市、石川市、勝連町及び与那城町が合併して誕生、那覇市より北東へ25 km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、有人・無人を含めて8つの島々があり美しい風景と豊かな自然環境に恵まれています。

農業面では、豊富な水資源と肥沃で広い土地に恵まれ、かつて生産量が沖縄一を誇った砂糖キビの他、野菜類、ニンジン、ミカン、オクラ等が栽培されています。

工業面では、加工交易産業の拠点として、金属加工業、食品加工業、建築資材卸売業、半導体製造業など多種多様な企業展開が行われています。

文化・観光面では、15世紀に活躍した歴史上著名な阿麻和利の居城として知られた勝連城跡があり、闘牛のメッカとして、春、秋の全島闘牛大会等が開催されて盛況を呈し、ビーチでは夏場の海水浴客やマリンスポーツで賑っています。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：11月2日10：00に、沖縄本島南東沖を震源とするM8.8規模の地震が発生し、うるま市では震度5強を記録、地震発生直後より大津波警報が発表され、うるま市沿岸には26分後に約6.7mの津波が押し寄せる想定の下で、うるま市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置し、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成29年11月2日（木）10：00～10：45
シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練
指定避難所、福祉避難所の開設訓練
ヘリによる物資搬送訓練、消火・救出・救助訓練
炊き出し訓練、災害対策本部設置運営訓練
気象台事前防災研修会（10月31日に実施）

■主催：内閣府、うるま市（共催：沖縄県）

■参加者数：約23,900名

■参加機関：自治会・自主防災組織、市内企業、小・中学校、幼稚園・保育所、高校、気象台、警察、消防、自衛隊等

当日の訓練内容

10:00～10:05 シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、地域住民、企業、学校の方々が、それぞれの場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

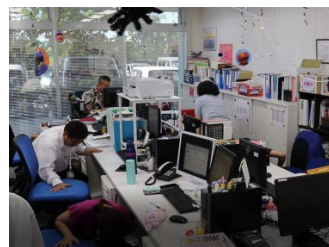
▼小学校



▼中学校



▼市内企業



10:05～10:45 津波避難訓練

シェイクアウト訓練後、小学校・中学校では各々示された高台の津波避難場所へ、市内企業はビル屋上へ垂直避難を実施した。

▼小学校



▼中学校



▼市内企業



10:05～10:45 物資搬送・救出・消火訓練

県警ヘリによる物資搬送、警察レンジャーによる救出、消防による消火訓練が実施された。

▼ヘリによる物資搬送



▼警察レンジャーによる救出



▼消防による消火



10:05～10:45 炊き出し訓練、災害対策本部設置運営訓練、資機材の展示

避難所における自治会による炊き出し訓練、市役所における災害対策本部設置運営訓練及び防災資機材の展示が実施された。

▼炊き出し訓練



▼災害対策本部設置運営訓練



▼防災資機材の展示



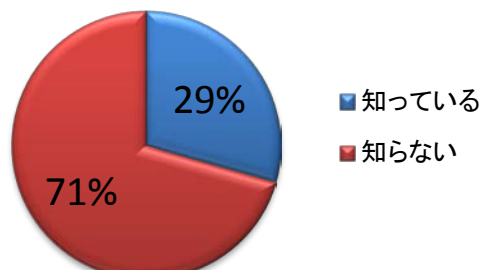
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：309人）

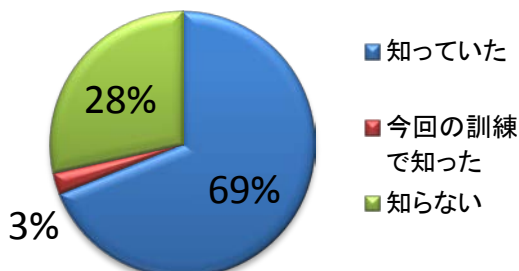
問 地震・津波防災訓練に参加して、どう思いましたか？（回答数：309人）



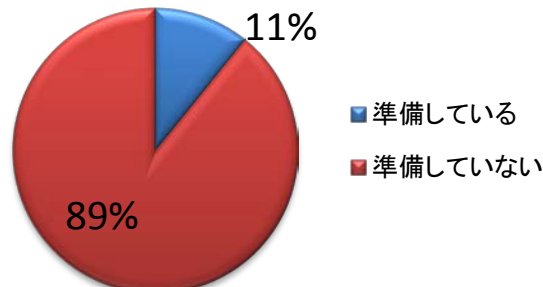
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：306人）



問 ご自宅からの津波避難経路を知っていますか？（回答数：306人）



問 地震等に備えて、非常用持出し袋等を準備していますか？（回答数：306人）



訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、高校生、幼稚園・保育所の園児を含め、企業や地域住民等を合わせ約23,900名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、住民に対しては訓練場所において、小学生は学校に戻ってアンケートに記入をして頂き、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、「防災意識の定着のため、この訓練は必要」、「初めて参加したが、続けてほしい」、「地域の方々との交流を兼ねて、時々こういう機会を持ってほしい」という評価の一方で、次のような提言や指摘が出された。

- 学校主体の訓練となっているので、地域を交えた訓練が必要。
- 要配慮者等の確認や避難誘導訓練を実施すべき。
- 企業と連携を図った訓練を行った方が効果がある。
- 防災の放送が聞こえ難かった。